



2020.10.13 プレスリリース
アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」 参加アーティスト、プログラム全容発表

～追加アーティスト・プログラム詳細決定、会期中イベント多数開催～



アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会は、「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」の参加アーティストとプログラムの全容を発表します。

●新たに発表となったプログラム

アートプログラム：中部地区で建築を学ぶ有志の学生とともに、空き家問題、建築活動に取り組む「みなとまち空き家プロジェクト」が、アドバイザーに川勝真一（RADディレクター／建築リサーチャー）を迎え、5年間の活動をまとめるアーカイブ展示と、まちなかをめぐる「リノベーション屋台」を実施。そのほか、本展を読み解くトークシリーズ「地域美学スタディ」や、現代美術展出展アーティストによるアーティストトークなどを開催します。

サウンドブリッジ：「港まちで再会する映像プロジェクト」に、浅井信好、石若 駿、イ・ヘジ、呂布カルマの参加が新たに決定。また井手健介によるライブは、名古屋港を航走するボートでの演奏を岸から鑑賞する、ここでしか出来ない港まちならではの企画となります。

●参加アーティスト

[MUSIC]

野村 誠 / 鈴木 潤 / 北口大輔 / 松谷阿咲 / アイリス・レゲヴ / 石橋直子 / 佐藤有沙 / 富久田治彦 / 満丸彬人 / ロバート・ボルショス / ゲオルギ・シャシコフ / 黒河内彩 / Le Bois Quartet / 引田香織 / 小松 大 / 大橋志麻 / マーメイド・ストリングカルテット / 益川京子 / 永井聖子 / パシフィック カルテット / mica+hachi

[ART]

上田 良 / L PACK. / 折元立身 / 丸山のどか / 三田村光土里 / ミヤギフトシ

[SOUND BRIDGE]

浅井信好 / 石若 駿 / 井手健介 / イ・ラン / イ・ヘジ / 大城 真 / 角銅真実 / Gofish / 呂布カルマ

*MUSICはプレスリリース掲載順、ART・SOUND BRIDGEは五十音順 *下線は今回新たに発表

●パンフレットが完成

「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」の音楽、アート、サウンドブリッジのプログラムの全容を紹介するパンフレットが完成しました。パンフレットはウェブサイト（www.assembridge.nagoya）からダウンロードいただけます。

「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」開催概要

会 期：2020年10月24日（土）～12月13日（日）

会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催

会 場：名古屋港～築地口エリア一帯

主 催：アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

[構成団体]名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、公益財団法人名古屋文化振興事業団

助 成：2020年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業、公益財団法人 福武財団、公益財団法人朝日新聞文化財団



公益財団法人 福武財団



※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。
ウェブサイト：www.assembridge.nagoya twitter：@assembridge FB：assembridge.nagoya instagram：@assembridge.nagoya

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会事務局

広報に関するお問い合わせ E-mail: press@assembridge.nagoya (担当:出会)

〒455-0037 名古屋市港区名港 1-19-18 3F

TEL/FAX 052-652-2511(平日 9:00-17:00) E-mail contact@assembridge.nagoya (事務局)

開催概要

●アッセンブリッジ・ナゴヤとは

今年も港まちを舞台に、音楽とアートがあふれます。

アッセンブリッジ・ナゴヤは、名古屋の港まちを舞台に2016年よりスタートした、音楽と現代美術のフェスティバルです。音楽やアートが架け橋となり、まちと人が出会い、つながりが生まれ、新たな文化が育まれていくことを目指しています。コンサートホールや美術館ではなく、いつものまちが会場となり、名古屋の港まちの日常に音楽やアートが溶け込み、創造性溢れる場所から風景が動き出していきます。

[アッセンブリッジ assembridge] とは、「集める」「組み立てる」などの意味をもつ [アッセンブル assemble] と、[ブリッジ bridge] を組み合わせた造語です。

●「アッセンブリッジ・ナゴヤ2020」開催趣旨

港まちから多彩な音楽・現代アートのプログラムを発信、配信

5回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症によって、文化や芸術に触れる機会が限られている現状を踏まえ、この港まちから多彩な音楽・現代アートのプログラムを発信、配信することで、豊かな時間を多くの人に届けることを目指します。新型コロナウイルス感染拡大防止策とともに、開催の準備を行なっております。どうぞご期待ください。

●開催概要

- 名 称 | アッセンブリッジ・ナゴヤ2020 / Assembridge NAGOYA 2020
会 期 | 2020年10月24日(土)～12月13日(日)
会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催
会 場 | 名古屋港～築地口エリア一帯
主 催 | アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会
[構成団体]名古屋市長官邸、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、公益財団法人名古屋市文化振興事業団
助 成 | 2020年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、公益財団法人 福武財団、公益財団法人朝日新聞文化財団



公益財団法人 福武財団



※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。

メインビジュアル

5回目の節目を迎える本フェスティバル。奥行きと動きのあるドットは、これまでのアッセンブリッジ・ナゴヤが重なり、一つになるイメージを表現しています。



デザインディレクション、デザイン

中西 要介 Yosuke Nakanishi

1981年生まれ、神奈川県在住。株式会社 STUDIO PT。フリーランスを経て、2018年中澤耕平と株式会社 STUDIO PT。設立。エディトリアルデザインを軸に、いろいろな媒体のデザインを手がける。

HP | studio-pt.co/



デザイン | 根津小春 (STUDIO PT.)、寺脇裕子

溝田 尚子 Naoko Mizota

1978年生まれ、愛知県在住。フリーランス。千種区今池にある共同オフィス Sundwich に在籍。リソグラフィスタジオ when press を仲間とオープン。愛知県を中心に、美術系のアートワークを手掛ける。

HP | www.mizotanaoko.com



企画体制

アートプログラムディレクター

服部 浩之 Hiroyuki Hattori

インディペンデントキュレーター／秋田公立美術大学 准教授

1978年愛知県生まれ。2009-16年青森公立大学国際芸術センター青森〔ACAC〕学芸員。近年の主な企画に、「あいちトリエンナーレ2016」、「近くへの遠まわり」（ウィフレド・ラム現代美術センター、キューバ・ハバナ、2018年）など。また第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館キュレーターを務めた。



青田 真也 Shinya Aota

アーティスト

1982年大阪府生まれ。主な展覧会に「あいちトリエンナーレ2010」、「日常／オフレコ」（神奈川芸術劇場、2014年）、「MOT アニュアル2014」（東京都現代美術館）、「Shinya Aota 2014」（青山|目黒、東京）、「青田真也|よりそうかたち」（Breaker Project、大阪、2018年）など。また2015年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。

撮影 | 三浦知也



吉田 有里 Yuri Yoshida

アートコーディネーター／名古屋芸術大学 准教授

1982年東京都生まれ。BankART1929のスタッフを経て、あいちトリエンナーレ2010・2013のアシスタントキュレーターとしてまちなか展示の会場である長者町エリアを担当。2014年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。



音楽プログラムディレクター

岩田 彩子 Ayako Iwata

チェリスト

1978年愛知県生まれ。大学在学中から、チェリストとして、オーケストラでの客演や、室内楽、ソロ、レコーディング等ジャンルを隔てない演奏を続けるとともに、演奏会の企画、合唱団の立上げなど企画運営も行う。音楽大学での講師、豊田市ジュニアオーケストラの指導者等、教育活動にも力を入れている。



レジデンス・アンサンブル プロジェクト ディレクター

北川 明孝 Hirotaka Kitagawa

ON music project 代表

1979年愛知県生まれ。2010年より、ON music project という名前で、主にクラシック音楽分野のコンサートを開催している。この活動を通して、奏者とお客様との、奏者とコンサートとの、そして人と人との小さな縁を楽しむように、活動を継続したいと考えている。



アーキテクト

米澤 隆 Takashi Yonezawa

建築家／米澤隆建築設計事務所主宰／大同大学専任講師

1982年京都府生まれ、愛知県在住。主な作品に『公文式という建築』2011、『福田邸』2013などがある。主な受賞に、『THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARD 2013』『日本建築学会作品選集 新人賞 2015』などがある。



企画概要

音楽プログラム | MUSIC

音楽が繋ぐ、遠くと近く。

5 回目を迎えるアッセンブリッジ・ナゴヤ。今年も港まちは例年のようにあちこちで音楽が聴こえる日々を迎えるはずでした。新型コロナウイルス感染症の影響で自粛していた各地のコンサートは少しずつ再開している所もありますが、まだまだ以前のような状況とはいえません。また、配信などオンラインを通じたかたちも、もはや珍しくない状況になってきました。他県にすら行くことが憚られるときに、国内外のコンサートやイベントを配信で観られることは、「渡りに舟」であり、得られるものも多いでしょう。しかし、無観客演奏を経験し再び対面で演奏した演奏家たちは、ロクに無観客と対面コンサートとの違いをこう語ります。やはりコンサートは観客と一緒につくるものなのだ、と。

何百年も、かたちは変えつつ続いてきたコンサートというスタイルは、そう簡単に他のかたちに置き換えられるものではありません。録音録画の技術がホールに近い音響や臨場感を持つまでに発展してきた今でも、やはりその日その時だけの音楽に会いに行く、音を肌で感じる、会場で音楽を共有する、という行為はそうは簡単に代替できないでしょう。

一連の自粛等で音楽活動をできなくなったのはプロの演奏家だけではなく、アマチュアの音楽活動、学校などの音楽教育現場でも、これまで通りの方法では実施できなくなっています。発表の機会やそれに向けての練習機会も奪われています。アッセンブリッジ・ナゴヤは、そのような「生涯学習としての音楽」に関わる人たちにも目を向けたいと思っています。

音楽は時間芸術であり、そこで生まれた演奏は、基本的にはその瞬間に消えてしまいます。この瞬間は二度と訪れないと思いつつ味わうからこそ美しくもあります。

人と人の中から生まれる美しき時間が、今をまさに生きているという実感を強めてくれると信じています。

音楽プログラムディレクター | 岩田彩子

参加アーティスト

野村 誠、鈴木 潤、北口大輔、松谷阿咲、アイリス・レゲヴ、石橋直子、佐藤有沙、
富久田治彦、満丸彬人、ロバート・ボルシヨス、ゲオルギ・シャシコフ、黒河内彩、
Le Bois Quartet、引田香織、小松 大、大橋志麻、マーメイド・ストリングカルテット、
益川京子、永井聖子、パシフィック カルテット、mica+hachi

プログラム概要

●Beethoven 250 ワークショップ & 北口大輔リサイタル

未来を担う子供たちに向けて、「音楽を続けたい」「やってよかった」と思えるような音楽体験や音楽家との出会いを、ワークショップとコンサートというかたちで届けます。

●レジデンス・アンサンブル プロジェクト

若手音楽家が港まちに滞在し演奏家のいるまちの姿をつくる「レジデンス・アンサンブル プロジェクト」を今季も実施します。彼らが滞在期間を通して自分たちの内面の世界を広げていくさまを、この時だからこそ考えられるかたちで実現していきます。

●みなとまちのうたプロジェクト

昨年楽曲制作として始まったプロジェクトは、制作過程を記録しながら、アーティストの目から見た今を、音と言葉により表そうとする「みなとまちのうたプロジェクト」という新しいかたちで走り出しました。

●アウトリーチ

継続的に地元の演奏家の活躍する機会も創出し、対面型のコンサートやアウトリーチ活動を行う予定です。



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018
ポートハウスでの公演の様子 撮影 | 柴田祐希



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019
レジデンス・アンサンブルプロジェクトの様子
出演 | ジェムカルテット 撮影 | 柴田祐希

プログラム

音楽プログラム | MUSIC

北口大輔がチェロリサイタルするかと思いきや・・・野村と鈴木が乱入してみた！ークラシックジャズチャンプルー

ジャンルを超えたコンサート。何が起るか、何が飛び出すか、あなたも参加してみた！を。

11.23 (月・祝) 14:50-15:50

会場 | ポートハウス

出演 | 北口大輔 (Vc)、鈴木 潤 (Key)、野村 誠 (作曲、Key)

料金 | 無料 * 要予約

定員 | 60 名

プログラム | J.S. Bach: 無伴奏チェロ組曲より第一番、P. デズモンド: テイク・ファイブ、野村 誠: 迷惑な反復コーキョー曲 Beethoven 25 ほか

* 全席自由。

* 定員となり次第受付を終了させていただきます。

* 先着順、ワークショップ参加人数により変動があります。



野村 誠



鈴木 潤



北口大輔

迷惑な反復コーキョー曲 Beethoven 250を弾いてみよう！

三人の音楽家によるワークショップ。楽器をもって名古屋港に集合！ベートーヴェン 250 歳の 2020 年、今ここで生まれる音に会いにきてください。

11.23 (月・祝) 14:00-14:30

会場 | ポートハウス

出演 | 野村 誠 (作曲、Key)、鈴木 潤 (Key)、北口大輔 (Vc)

料金 | 無料 * 要予約

定員 | 20 名

対象 | 楽器を演奏できる小中学生

楽器 | オーケストラで演奏される楽器 (ヴァイオリン、フルート、トランペットなど)

プログラム | 野村 誠: 迷惑な反復コーキョー曲 Beethoven 250 ほか

* 全席自由。

* 先着順、定員となり次第受付を終了させていただきます。

名フィルメンバーの対話で綴る2020ー演奏会空白のときー Web

演奏活動自粛により、ホールからの音楽が消えたその時、演奏家たちは何をし、何を考えていたのか。名フィルメンバーが語るそれぞれのとき。

インタビュー 1

出演 | 松谷阿咲 (Vn)、アイリス・レゲヴ (Vc)

ライブ配信日 | 10.11 (日) 19:00-19:45

インタビュー 2

出演 | 石橋直子 (Va)、佐藤有沙 (Vc)

ライブ配信日 | 10.11 (日) 20:00-20:45

インタビュー 3

出演 | 富久田治彦 (Fl)、満丸彬人 (Fl)

ライブ配信日 | 11.8 (日) 19:00-19:45

インタビュー 4

出演 | ロバート・ボルショス (Cl)、ゲオルギ・シャシコフ (Fg)

ライブ配信日 | 11.8 (日) 20:00-20:45

インタビューアー | 西田雅希 (キュレーター)

ライブ配信はこちらから▽

stand.fm | <https://stand.fm/channels/5f6ab30cf04555115d07c928>

アーカイブはこちらから▽

note | note.com/abn2020music (アッセンブリッジ・ナゴヤ 2020_音楽)



松谷阿咲

アイリス・レゲヴ



石橋直子

佐藤有沙



富久田治彦

満丸彬人



ロバート・ボルショス

ゲオルギ・シャシコフ

プログラム

かたり、かなでる～海のむこうと水辺から

海や水辺にまつわる物語を、演奏とビジュアル（映像や人形）にのせてお届けする。美しい演奏、語りを目と耳で感じていただけるでしょう。

料金 | 無料 * 要予約

定員 | 各公演 60 名 (予定)

企画 | 公益財団法人名古屋市文化振興事業団

* 全席自由。受付開始、客席開場は開演の 30 分前からです。

* 定員となり次第受付を終了させていただきます。

うみとさかなのものがたり～朗読 × 弦楽四重奏

海やさかなにまつわる絵本の物語を、優しい朗読と鮮やかな映像とともに、弦楽四重奏の美しい音色にのせてお届けします。

10.24 (土) 14:00-14:45

会場 | ポートハウス

出演 | 黒河内彩 (朗読)、Le Bois Quartet [宇佐見優 (Vn)、金谷寧々 (Vn)、山内佑太 (Va)、貫名紗詠 (Vc)]

題材 | 「スイミー」「さかなはさかな」「海を見たくま」



黒河内彩

旅する歌の舟 × アイルランドの風

わたしたちの命は水から生まれ、果てしなく広がる世界は、今この瞬間も海で繋がっています。共に島国である日本とアイルランドの音楽、そして美しい言葉の響きに身をまかせ、温もりあふれる心地よいひとときをお過ごしください。

10.25 (日) 14:00-15:00

会場 | ポートハウス

出演 | 引田香織 (Vo, Key)、小松 大 (Fiddle, Va)、大橋志麻 (Irish Harp)

曲目 | アイルランド伝統曲：ハーブ & シャムロック

引田香織：ぼくは言う (詞：谷川俊太郎) ほか



引田香織

小西・中村特許事務所 presents

人魚姫～弦楽四重奏 × 語り × 人形

幅広い世代に知られるアンデルセン童話「人魚姫」を、語りと人形とともに弦楽四重奏で紡ぎ、ファンタジーと光にあふれた温もりのある物語の世界へ導きます。

11.21 (土) 14:00-14:50

会場 | ポートハウス

出演 | マーメイド・ストリングカルテット [森本千絵 (Vn)、波馬朝加 (Vn)、箕浦理恵 (Va)、山田真吾 (Vc)]、益川京子 (語り)、永井聖子 (人形操演)

曲目 | J. テイラー：Little Mermaid、J. テイラー：Mermaid farewell ほか



マーメイド・ストリングカルテット

レジデンス・アンサンブルプロジェクト

公募により選ばれた弦楽四重奏団が今年も 10 日間港まちに滞在し、より一層細やかに、音楽を届けます。

滞在期間 | 10.24 (土) - 11.2 (月)

会場 | 名古屋港～築地口エリア一帯

出演 | パシフィックカルテット [香田早智 (Vn)、堀脩史 (Vn)、鶴友見 (Va)、丹羽あいり (Vc)]

* 滞在中には各種コンサート、公開練習等を予定しています。詳細はウェブサイトなどでお知らせします。



パシフィックカルテット

みなとまちのうたプロジェクト Web

ピアノ弾きで歌唄いの音楽ユニットである mica+hachi。彼女たちの楽曲制作過程を音と文字で綴っていく連載。

note 配信 | note.com/abn2020music (アッセンブリッジ・ナゴヤ 2020_音楽)

出演 | mica+hachi

協力 | 港まちづくり協議会



企画概要／プログラム

アートプログラム | ART

現代美術展『パノラマ庭園 - 亜生態系へ -』

アッセンブリッジ・ナゴヤは5年目を迎えます。アート部門は「パノラマ庭園」をテーマに名古屋港エリアを変容しつづける庭に見立て、プロジェクトを通じて、まちという生態系の一部としてその変化への応答を試みてきました。造園家ジル・クレマンが著作『動いている庭』で提示した「できるだけあわせて、なるべく逆らわない」（山内朋樹訳、2015年）という態度に共感し、まちでのアートプロジェクトを実践してきたと言い換えることもできます。

新型コロナウイルスが蔓延する今、多くの人々がまちやフェスティバルを訪れることが困難になりました。フェスティバルは日常生活圏を多くの人で賑わう非日常のハレの舞台へと開くものでしたが、この状況下でフェスティバルのあり方自体が問われています。一方、大きな美術館や劇場でない、まちなかの小さな空き家を主な会場とするアッセンブリッジ・ナゴヤで、実施すべきフェスティバルの規模や方法を改めて模索しています。

5年目として区切りとなる今年、もう一度原点に立ち返ることから始めたいと考えました。それは「つくる／うまれる場所」としての港まちです。アーティストが滞在し、創作に打ち込める場が港まちには複数あります。この5年間で、空き家を少しずつ整備し活動や制作の拠点としてきました。いくつかは既に解体され、またかたちを変え別の場所に移動しています。変化を受け入れつつ、これまで異なるアーティストが接木をするようにさまざまな活動をこのエリアで展開し、小さな手入れ（メンテナンス）を重ねてきました。

「できるだけあわせて、なるべくさからわない」を基底としつつも、「パノラマ庭園」はまちや人の暮らしに介入していく試みでもあります。美学者で庭師の山内朋樹は「ありふれた草花や鉢植えがそこにあることが、失調した世界に、わずかばかりの秩序をあたえている」⁽¹⁾状態を、「亜生態系」と呼び、バンジーのように一見凡庸な外来種がプランターに植えられている情景が、人びとに不思議な落ち着きを与えることを肯定します。港まちの状況はここで描かれている情景に近いものでしょう。

混沌のなかに小さな秩序を生み出すように、意志を持って創造し、「オープンエンド（おわりなき過程）」「境界をまたぐ」「移動と交換」「ポイエシスとミメシス（制作と再現）」などをキーワードに、それぞれのアーティストのプロジェクトを「パノラマ庭園」として展開していきます。

(1) 山内朋樹「なぜ、なにもないのではなく、バンジーがあるのかー浪江町における復興の一断面」『アーギュメント #3』2018年（P.15）

アートプログラムディレクター | 服部浩之、青田真也、吉田有里

参加アーティスト

上田 良、L PACK.、折元立身、丸山のどか、三田村光土里、ミヤギフトシ

展覧会概要

現代美術展『パノラマ庭園 - 亜生態系へ -』

会期 | 2020.10.24（土）-12.13（日）会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開場
休場日 | 月曜、火曜、水曜

開館時間 | 11:00-19:00 * 名古屋港ポートビル展望室は 9:30-17:00

[入場は閉館の30分前まで]

会場 | 港まちポットラックビル [アッセンブリッジ・ナゴヤ総合案内]、スーパーギャラリー、内藤ガレージ、NUCO、旧・名古屋税関港寮、名古屋港ポートビル展望室

料金 | 鑑賞にはブリッジパスが必要になります。



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019
折元立身『26人の港まちのおばあさんのランチ』
撮影 | 三浦知也

プログラム

アートプログラム | ART

プロジェクト

L PACK. 《NUCO》

約 20 年間、空き家になっていた旧・潮寿司。「空き家再生スクール」を経て、2016 年より《UCO》として息を吹き返した空間は、人びとが集う「社交場」として開かれていました。2018 年に UCO は惜しくも取り壊しとなりましたが、これまでの活動やコミュニティを継続するべく、その機能を移転し、新たな空き家を再生して、《NUCO》としてスタートしています。開場日はカフェ営業を行っています。

10.24 (土)–12.13 (日) 11:00–19:00

(* イベントによって開場時間が異なる場合があります)

[木曜、金曜、土曜、日曜、祝日 OPEN (* アssenブリッジ・ナゴヤ 2020 期間中)]

会場 | NUCO



《NUCO》2019-

みなとまち空き家プロジェクト

「みなとまち空き家プロジェクト」は、中部地区で建築を学ぶ有志の学生とともに港まちを舞台に、空き家問題、建築活動に取り組むプロジェクトです。5 年間の活動をまとめるアーカイブの展示とともに、会期中リノベーション屋台がまちなかをめぐります。

会期 | 10.24 (土)–12.13 (日) 11:00–19:00

[木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開場]

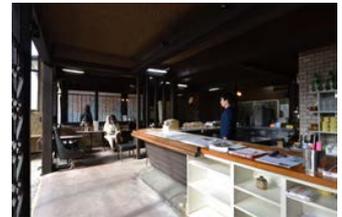
会場 | スーパーギャラリー

共同企画・監修 | 米澤 隆 (建築家/アssenブリッジ・ナゴヤ アーキテクト)

アドバイザー | 川勝真一 (RAD ディレクター/建築リサーチャー)

川勝真一

1983 年兵庫県生まれ、京都府在住。2008 年に建築的領域の可能性をリサーチするインディペンデントプロジェクト RAD (Research for Architectural Domain) を設立。建築展の企画、参加型の改修ワークショップ、都市の資源と課題調査の実施などを通じて、建築と社会の関わり方、建築家の役割についてのリサーチを行っている。



「みなとまち空き家プロジェクト」2017 撮影 | 怡士鉄夫

トーク

地域美学スタディ

本展を読み解くためのトークシリーズ。「地域」がフォーカスされる今、改めて有効な社会とアートのあり方を模索します。今回は美術館の作品収蔵に着目し、地域の美術館のコレクション構築と地域美術史の形成がどのような関係を成すか、美術館学芸員、芸術批評誌編集者とともに考察します。

vol.11 「地域の美術史を更新すること」

日時 | 12.13 (日) 15:00–17:00

会場 | 港まちポットラックビル

ゲスト | 鈴木俊晴 (豊田市美術館学芸員)、副田一穂 (愛知県美術館学芸員)、増田千恵 (編集・制作)

定員 | 15 名 * 要予約

参加 | ブリッジパスが必要になります

鈴木俊晴

豊田市美術館学芸員。1982 年愛知県生まれ、同地在住。豊田市美術館開館 25 周年記念コレクション展「VISION Part 1 光について / 光をともして」を担当する。同館での主な企画展に「奈良美智 for better or worse」(2017 年)、「フランシス・ベーコン」(東京国立近代美術館との共同企画、2013 年)、「村瀬恭子 fluttering far away」(2010 年) などがある。共著に『スポーツ/アート』(森話社、2020 年) がある。

副田一穂

愛知県美術館学芸員。1982 年福岡県生まれ、愛知県在住。愛知県美術館リニューアル・オープン記念 全館コレクション企画「アイチアートクロニクル 1919-2019」を担当する。同館での主な企画に「芸術植物園」(2015 年)、「マックス・エルンスト: フィギュア × スケープ」(横浜美術館・宇都宮美術館との共同企画、2012 年) などがある。共著に『バルセロナ: カタルーニャ文化の再生と展開』(竹林舎、2017 年) がある。

増田千恵

編集・制作。1978 年東京都生まれ、愛知県在住。2004 年よりリア制作室に参加し、芸術批評誌『REAR』(2003 年-) の編集や、「アイチアートクロニクル 1919-2019」(愛知県美術館、2019 年) の図録編集で美術 100 年史を手がける。2020 年に個人出版「this and that」を開始し、『STAYTUNE/D』を刊行、『タイムライン——時間に触れるためのいくつかの方法』を準備中。

HP | tat-pub.stores.jp



地域美学スタディ vol.2 「地域とアートに関係性は必要か?」の様子

プログラム

アーティストトーク

ミヤギフトシ アーティストトーク

2016年に発表した《いなくなってしまった人たちのこと》の続編で、愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品として制作された新作《音と変身》について、本作プロデューサーである越後谷卓司を迎えて、お話を伺います。

日時 | 10.24 (土) 15:00-16:30

ゲスト | 越後谷卓司 (愛知県美術館主任学芸員)

会場 | 港まちポットラックビル

定員 | 15名 * 要予約

参加 | ブリッジパスが必要になります

協力 | 愛知県美術館

越後谷卓司

愛知県美術館主任学芸員 1964年東京都生まれ、愛知県在住。愛知芸術文化センターの特集上映会の企画や、「オリジナル映像作品」の制作などを通じ、映像表現の新しい可能性を追求している。「あいちトリエンナーレ」では、2010年、2013年、2016年に映像プログラムのキュレーターを務めた。共著書に『映像表現のオルタナティブ』(2005年、森話社)、『フィルムメーカーズ』(2011年、アートアンドクラフツ)などがある。



上田良 アーティストトーク

港まちに1ヶ月滞在し、期間中出会った風景や出来事、新作について、また制作過程やこれまでの活動などのお話を伺います。

日時 | 10.25 (日) 14:00-15:00

会場 | 港まちポットラックビル

定員 | 15名 * 要予約

参加 | ブリッジパスが必要になります



丸山のどか アーティストトーク

港まち独自の地域性と個人的な経験を重ね合わせ、港まちで制作された新作インスタレーションについて、お話を伺います。

日時 | 10.25 (日) 16:00-17:00

会場 | 旧・名古屋税関港寮

定員 | 15名 * 要予約

参加 | ブリッジパスが必要になります



三田村光土里 アーティストトーク

会期中、旧・名古屋税関港寮で滞在制作を行い日々変化していく新作インスタレーションや、これまでの自身の作品について、制作の過程を振り返りながらお話を伺います。

日時 | 12.6 (日) 15:00-16:00

会場 | 旧・名古屋税関港寮

定員 | 15名 * 要予約

参加 | ブリッジパスが必要になります



「ノコン_いつもいつのまにか絡まっている」
2018, Art Center Ongoing (東京)

イベント

L PACK. × フクナガコウジ New Useful Copied Objects

《UCO》《NUCO》のロゴを毎年デザインしてきたデザイナー・フクナガコウジによる NUCO グッズの公開制作。シルクスクリーンで、新たな NUCO のロゴを使ったグッズを発表します。また、お持ちのアイテムにプリントして、オリジナル NUCO グッズをつくることもできます。(先着 10名)

日時 | 10.24 (土) 13:00-18:00

会場 | NUCO

ゲスト | フクナガコウジ (デザイナー / UCO・NUCO ロゴデザイン)

プリント代 | 1点につき 500円から (別途生地代がかかる場合があります。)



「New Useful Copied Objects」2019 撮影 | 蓮沼昌宏

ミヤギフトシ モームとNUCO

ミヤギフトシのテキストによるプロジェクト「お菓子とビールを読みながら」から生まれた「洋菓子モーム」。この日限りのスペシャルスイーツを、《NUCO》のドリンクとともに楽しみいただけます。

日時 | 10.31 (土) 11:00-19:00 (なくなり次第終了)

会場 | NUCO



「モームと NAKAYOSI」2016 撮影 | ミヤギフトシ

L PACK. NUCOの1日

《UCO》《NUCO》では、この5年間で、カフェを中心に、イベントやライブ、展示、ワークショップなど、さまざまな企画を行ってきました。メンバーとともにUCO、NUCOを開いてきたL PACK. がホストになって、モーニングやライブ、パーティタイムなど、これまでの活動を凝縮した1日をお届けします。*スケジュールや詳細については、ウェブサイトでお知らせします。

日時 | 11.14 (土) 7:00-21:00

会場 | NUCO

ホスト | L PACK.



「Cocktail Club Cola de gallo」2019 撮影 | 高田了平

企画概要／プログラム

サウンドブリッジ | SOUND BRIDGE

音楽・アート・港まちをブリッジする 分野横断型プログラム

名古屋の港まちは、港湾らしい雰囲気と日々の暮らしが混ざり合う特有の環境を有しています。サウンドブリッジでは、そのような港まちとアーティストの表現が響きあう試みを、ライブ、パフォーマンス、祭りといった形態を用いて、多様なアプローチで展開してきました。まちに息づく文化と、音楽やアートをはじめとした数々の要素がシームレスにつながり、アーティストと観客がともに時間と場所を共有するプログラムです。

新型コロナウイルス感染症によって集まって空間や時間をともに過ごすことが容易でなくなった今、サウンドブリッジでは引き続き「港まち」を起点に、「体験」にフォーカスしてプログラムを行います。人と離れること、時間を異にすること、それらの要素を生かした共有の体験です。こうした状況だからこそ生まれた観点や手法が、これまで気に留めていなかった出来事や景色にスポットをあて、港まちでの新しい体験を創造します。

参加アーティスト

浅井信好、石若 駿、井手健介、イ・ラン、イ・ヘジ、大城 真、角銅真実、Gofish、呂布カルマ

プログラム

港まちで再会する映像プロジェクト

これまでサウンドブリッジに出演したアーティストたちが、「港まち」と再会します。港まちのさまざまなロケーションを舞台に、アーティスト同士の共演や、新たに港の風景と出会う様子を映像に記録し港まちで上映するほか、ウェブサイトでの公開も予定しています。アッセンブリッジ・ナゴヤのこれまでの軌跡から、再会によって、港まちの新たな情景が浮かび上がります。

10.24（土）-12.13（日）11:00-19:00

[木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開場]

上映会場 | 築地シティ住宅 2F・テナントスペース東側奥

*鑑賞にはブリッジパスが必要になります

プログラム①

出演 | 角銅真実、大城 真

プログラム②

出演 | 石若 駿、浅井信好、呂布カルマ

プログラム③

出演 | Gofish、イ・ラン、イ・ヘジ

上映スケジュール

プログラム① | 10.24（土）-11.8（日）

プログラム② | 11.12（木）-11.23（月・祝）

プログラム③ | 11.26（木）-12.6（日）

プログラム①②③ | 12.10（木）-12.13（日）

*ウェブサイトでの公開についての詳細は後日発表します。

Web



角銅真実、大城 真



「みなと音めぐり」2017 撮影 | 青山孝信

プログラム

井手健介ライブ

アッセンブリッジ・ナゴヤ 2020、アート部門出展作家のミヤギフトシによる港まちを舞台にした映像作品《音と変身／ Sounds, Metamorphoses》に出演する音楽家・井手健介のライブ。ここでしか出来ない港まちの環境ならではのライブを開催します。

プログラム 1

井手健介とモームと NUCO

映像作品《音と変身／ Sounds, Metamorphoses》の撮影会場の一つ NUCO で、井手健介が音楽を奏でます。ミヤギフトシによる洋菓子モームのお菓子とドリンク付き。まちの社交場 NUCO で過ごす、特別な朝の一時間。

10.31 (土) 9:30-10:30

会場 | NUCO

参加 | ¥1,500 (別途、ブリッジパスが必要になります) * 洋菓子モームのお菓子とドリンク付き

定員 | 10名 * 要予約



井手健介

プログラム 2

The Lonely Surfer

名古屋港を航走するボートに乗って井手健介が海上から音楽を奏で、その演奏を岸から鑑賞するプロジェクト。港に響くさまざまな音、波や風、対岸の景色など、音楽と名古屋港の環境をまるごと堪能する企画です。

11.1 (日) 15:00-16:00 (終了予定)

・ 14:30 より、ポートハウスで受付いたします。

・ 受付後、14:45 以降に会場にご案内いたします。

出演 | 井手健介

ゲスト | テライショウタ (From Gofish)

チケット料金 | ¥1,500 (別途、ブリッジパスが必要になります)

定員 | 25名 * 要予約

* 雨天時の対応については、ご予約いただいた方に後日ご連絡いたします。

* 屋外での公演のため暖かい格好でご来場ください。



撮影 | 今井正由己

港まちブロックパーティー

ブロックパーティーとは、ブロック (街区) の住民が集まって行う地域のお祝いや祭りを意味します。昔から港まちは世界中の人びとやものが行き交ってきた場所です。港まちブロックパーティーでは、パフォーマーによるステージやマーケットを開催予定。フェスティバルの最終週に、音楽やアート、港まちの文化が集まり、世代を超えてみんなで楽しむ祭りを行います。

12.12 (土)

会場 | 港まちポットラックビル、ほか築地口商店街界隈

* 詳細は決まり次第、ウェブサイトでお知らせします。



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019
「港まちブロックパーティー」撮影 | 三浦知也

参加アーティスト

音楽プログラム | MUSIC

Beethoven 250 ワークショップ&北口大輔リサイタル

野村 誠 Makoto Nomura Comp

1968年、愛知県生まれ。主な作曲活動に、アリクイやシシオザルと共演する「動物との音楽」、屋根の瓦を演奏する「瓦の音楽」、演劇、ダンス、音楽、マネジメントが交差する「門限ズ」、相撲に音楽を聞く「相撲聞芸術」、だじゃれで音楽を創作する「だじゃれ音楽」、調律師と未来のピアノ奏法を探求する「ピアノの本音」、北斎漫画の音楽を創造する「考古楽」、多様な音楽が共存する「世界のしょうないオーケストラ」、東南アジアの作曲家との原発をめぐる共同作曲「魚も核武装する」など。著書に『音楽の未来を作曲する』（晶文社）、『即興演奏ってどうやるの』（おおぞら音楽社、片岡祐介との共著）など。日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。



鈴木 潤 Jun Suzuki Pf

鍵盤奏者。作曲家。ピアノ、キーボード、鍵盤ハーモニカ、足踏みオルガンなどを演奏。5歳のときピアノ・作曲をはじめ、京都大学文学部哲学科美学美術史卒業後、東京を中心にミュージシャンとして活動。国内外のアーティストのサポートキーボードとして活躍。京都移住後、ピアノソロや、サポートキーボーディスト、鍵盤ハーモニカプレイヤー、トラックメーカーとしての活動と平行して、さまざまなユニークなバンドや地域に根ざした音楽活動、長年の音楽ワークショップの経験からオーケストラや音楽大学等での音楽ワークショップのトレーニングなども行なっている。

HP | <https://suzukijun.com>



北口大輔 Daisuke Kitaguchi Vc

1978年、大阪府生まれ。東京藝術大学音楽学部、同大学院修士課程修了。ソリストとしてのオーケストラとの協演や幅広いレパートリーでのリサイタルも数多く、その演奏はいずれも高い評価を得ている。「全く危なげないソリストぶり、余裕の力演」「新鮮にして風格のある演奏」（音楽の友誌）、「実力派、頼もしい存在感を披露」（モーストリー・クラシック誌）、「彼が入る事によりチェロセクションの音が格段に引き締まる」（朝日新聞）など、音楽専門誌からもその力量を賞賛されている。ジャズやロックへの取り組みに対して 2019 年度大阪文化祭賞奨励賞を受賞。全日本学生音楽コンクール審査員。東京都交響楽団チェロ奏者、九州交響楽団首席チェロ奏者、同楽団首席客演チェロ奏者を歴任し、現在、日本センチュリー交響楽団首席チェロ奏者。大阪音楽大学特任准教授。

HP | <http://daisukekitaguchi.com>



名フィルメンバーの対話で綴る2020 ー演奏会空白のときー

松谷阿咲 Asaki Matsugai Vn

豊田市出身。愛知県立岡崎高等学校卒業。早稲田大学商学部卒業後に渡仏し、フランス国立ヴェルサイユ音楽院の最高過程に入学。同音楽院を審査員満場一致の一等賞を得て首席卒業した後、オーストリア・ウィーンにてライナー・キュッヒル氏に師事し、研鑽を積む。2011年、名古屋フィルハーモニー交響楽団に入団。2016年2月より1年間ベルリンに留学。Das Orchester Berlinなどに客演出演する。

オーケストラでの演奏のみならず、ソリスト、室内楽奏者としても幅広く活躍している。これまでに吉野淳子、鈴木愛子、イゴル・ヴォロシン、ライナー・キュッヒル、戸澤哲夫、荻原尚子、トマシュ・トマシェフスキーの各氏に師事。豊田文化奨励賞受賞。



参加アーティスト

Iris Regev アイリス・レゲヴ Vc

アメリカ合衆国カリフォルニア州ロスアンジェルス出身。クリーブランド音楽院を経て、ジュリアード音楽院（音楽学士）を卒業。イスラエルフィルハーモニーオーケストラ、イスラエルカメラータオーケストラ、バンコクシンフォニーオーケストラとソリストとして共演。室内楽では、カーネギーホールでのトリオコンサートに出演する他、マイアミではピンカス・ズーカーマンと弦楽五重奏を共演している。

これまでに、ジュピターシンフォニーオーケストラ、サンパウロステートオーケストラ（副首席奏者）、リオデジャネイロステートオーケストラ（副首席奏者）、イスラエルフィルハーモニーオーケストラに在籍。2018年より、名古屋フィルハーモニー交響楽団チェロ奏者。



石橋直子 Naoko Ishibashi Va

大阪府高槻市出身。5歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。同研究科修了。米コロラド州アスペン音楽祭に参加。在学中カールライスター氏の教えを受ける。22歳でヴィオラに転向。南日本テレビ放送賞を受賞する他、数々のコンクールで入賞する。桐朋学園創立記念祝典での演奏をはじめオーケストラとの共演、リサイタル、その他にレコーディングからJポップアーティストのサポートメンバー等ジャンルを問わず幅広く活動する。

また国内主要オーケストラでゲスト首席奏者としても活動。2004年まで桐朋オーケストラアカデミー嘱託演奏員。兵庫芸術文化センター管弦楽団にてフォアシュピラーを務め、現在名古屋フィルハーモニー交響楽団首席ヴィオラ奏者。名古屋市立菊里高等学校、名古屋芸術大学、愛知県立芸術大学各非常勤講師。第14回名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞。



佐藤有沙 Arisa Sato Vc

名古屋市出身。3歳よりヴァイオリン、13歳よりチェロを始める。東京藝術大学、及び同大学院修士課程修了。在学中に渡欧し、リヨン地方音楽院上級課程、ルガーノ音楽院上級課程、及びジュネーヴ高等音楽院修士課程修了。2010年横浜国際コンクール弦楽器部門第2位 2011年A. グラズノフ国際コンクールチェロ部門第1位(パリ) 2012年クレ・ドール国際コンクールチェロ部門第1位、クレ・ドール賞受賞(パリ) 2013年パドヴァ国際コンクール弦楽器部門第2位(イタリア) 2018年文化庁新進演奏家育成プロジェクトにて名古屋フィルハーモニー交響楽団とオネゲルのチェロ協奏曲を共演。また、イスラエル・カメラータ・エルサレム(イスラエル)やアカデミア・アドリアティカ(イタリア)等にもソリストとして招聘されている。

現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団次席チェロ奏者。ソリスト、室内楽奏者としても日本及びヨーロッパで活動を続ける。



富久田治彦 Haruhiko Fukuda Fl

京都府京都市出身。フルートを12歳で始め、川瀬瑩公氏、伊藤公一氏に師事する。京都市立芸術大学を経て、1988年同大学院を修了。修了に際し大学院賞を受賞。在学中に第3回日本フルートコンヴェンションコンクール第1位。1989年名古屋フィルハーモニー交響楽団に入団。その後、第1回日本木管コンクール第2位、1991年にはバロックザールでのリサイタルが評価され、青山音楽賞を受賞。1995年アフィニス文化財団海外研修生に選ばれ、アメリカ合衆国へ留学。ミッシェル・デボスト氏、フェンヴィック・スミス氏らのもとで研鑽を積む。

現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団首席フルート奏者。京都市立芸術大学大学院および椋山女学園大学大学院非常勤講師。アジア・フルート連盟常任理事。



参加アーティスト

満丸彬人 Akito Mitsumaru Fl

鹿児島県出身。鹿児島県立松陽高等学校音楽科を経て東京藝術大学を同声会賞を得て卒業、同大学院修士課程を修了。瀬木芸術財団より奨学金を得てフランスへ留学し、パリ地方音楽院、エコール・ノルマル音楽院で演奏家課程のディプロムを取得。また、クラマール音楽院でピッコロを専門的に学ぶ。

第18回コンセール・マロニエ21木管楽器部門入選、第19回びわ湖国際フルートコンクール一般の部第2位、第1回刈谷国際音楽コンクール、グランプリ受賞、第16回ゲオルグ・ディマ国際コンクールフルート部門最高位（ルーマニア）、ジュヌ・フルーティスト国際コンクールピッコロ部門第2位（フランス）、第18回日本フルートコンベンションピッコロ部門第1位。東京吹奏楽団フルート奏者を経て、現在名古屋フィルハーモニー交響楽団フルート奏者。



Robert Borsos ロバート・ボルシヨス Cl

セルビア共和国出身。9歳よりニコラ・グルイエフスキ教授のもとクラリネットを始め、10歳でベオグラードのコンクールで優勝。12歳でノヴィ・サド音楽院でニコラ・スラディッチ教授に師事。1996年、オーストリア国立グラーツ音楽院に入学し、ペーラ・ゴヴァーチ氏に師事。在学中、ヨーロッパ諸国にてソロコンサートを開催。2003年、同大学を首席卒業。卒業後はゲラルト・バツヒンガー教授に師事しながら、ベオグラード・フィルハーモニー管弦楽団、グラーツ交響楽団、ウィーン交響楽団、イエーテボリ歌劇場などに客演。2008年、ヴェンツェル・フック氏、ペーター・シュミードル氏のマスタークラスを受講。

これまでにベオグラード・フィルハーモニー管弦楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団に在籍し、2010年に名古屋フィルハーモニー交響楽団に入団。現在同団首席クラリネット奏者。オーケストラでの演奏の他、ソロ、吹奏楽、木管アンサンブルの指導にも積極的に取り組んでいる。



Gueorgui Chachikov ゲオルギ・シャシコフ Fg

ブルガリア共和国出身。1998年よりワイマール国立音楽大学でG.クルツ氏に師事。その後、ケルン音楽大学に移籍。2005年、満場一致の最優秀の成績を得て、ディプロマを取得。2007年にドイツ国家演奏家資格を取得。

1998年より”Philharmonie der Nationen”首席奏者として、ヨーロッパ諸国、アジア、アメリカで活躍。2002年-2004年クラシックフィルハーモニー・ボン首席、2004年-2006年ケルン室内管弦楽団首席。2007年より、名古屋フィルハーモニー交響楽団首席ファゴット奏者。NHK-FM「名曲リサイタル」に出演。ソリストとして名古屋フィル他と共演。パイロイト国際コンクール木管部門”Pacem in Terris 2001”年度ファイナリスト。2006年”Paul und Helga Hohnen”コンクール第2位受賞。2007年日本管打楽器コンクール入賞、2008年宝塚ベガコンクール入賞。



かたり、かなでる～海のむこうと水辺から

うみとさかなのものがたり～朗読×弦楽四重奏

黒河内彩 Aya Kurokouchi 朗読

愛知県出身、同地在住。玉川大学文学部芸術学科芸術表現コース卒業後、2000年より劇団シアター・ウィークエンドに所属。名古屋を中心に舞台俳優の活動を行う。主な出演作品は、名古屋市文化振興事業団設立30周年記念事業、井上ひさし《國語元年》南郷光役、名古屋市文化振興事業団舞台創造事業《DANCE ON THE PLANET》キャビンアテンダント役、なごや芝居の広場企画、小山内美江子《暮しの詩》野中朋代役、松本清張《ゼロの焦点》室田佐知子役、永井愛《片づけたい女たち》ツンコ役、など。2020年度なごや芝居の広場朗読ワークショップ《喜読哀楽》では講師を担当。



参加アーティスト

Le Bois Quartet ルボワ・カルテット 弦楽四重奏

宇佐見優 (Vn)、金谷寧々 (Vn)、山内佑太 (Va)、貫名紗詠 (Vc) によるカルテット。
2015 年、愛知県立芸術大学の学生 4 人で結成。室内楽を花崎 薫、小林 道夫、百武 由紀の各氏に師事。2016 年プラジャーク カルテット、2017 年ハンス・クリスティアン・シュバイカー氏によるマスタークラスを受講。第 3 回宗次ホール弦楽四重奏コンクールに出場し、原田 禎夫、ヴァーツラフ・レメシュ、百武 由紀の各氏によるマスタークラスを受講。愛知県立芸術大学選抜による室内楽のタベ Vol.15、16 に出演。現在、名古屋市内を中心に演奏活動を多方面で展開する。「Le Bois」はフランス語で「小さな森」の意で、季節によって様々な表情を見せる愛知県立芸術大学の自然豊かなキャンパスをイメージしている。



左上から | 宇佐見優、金谷寧々、山内佑太、貫名紗詠

旅する歌の舟 × アイルランドの風

引田香織 Kaori Hikita Vo, Pf

1986 年福岡県生まれ。北九州市出身のシンガーソングライター。2005 年 TV アニメ「LOVELESS」ED テーマ「みちゆき」で全国デビュー。透明感のある歌声と独特の世界観が好評を博し、梶浦由記氏をはじめ豪華作家陣による楽曲提供で話題となる。2014 年、アイルランドでの一人旅の中「日本語の響きの美しさ」を再確認し、現地で童謡や唱歌などを歌ってまわる。帰国後、詩人谷川俊太郎氏のもとへ会いにゆき「谷川俊太郎をうたう」と題して活動を展開。2016 年、豪華客船「ダイヤモンドプリンセス」にて日本人としては初となるピアノラウンジでのゲストエンターテイナーを務める。2017 年、ニューヨークで音楽療法を学んだのち、株式会社アース・キッズにて発達障害をもつ子どもたちに対する音楽療育プログラムを考案する「音楽文化療育士」のコンサルタント業務を担当。2019 年、現代詩をうたうコンセプトの自主制作アルバム「わたしが一番きれいだったとき」を発表。

HP | <https://hikitakaori.wordpress.com/>



小松大 Dai Komatsu Fiddle

音楽と人と場所をつなぐアーティスト。2004 年にアイルランド音楽と出会う。パット・オコナーら現地のプレイヤーから学んだフィドルは力強いリズムと美しいフレーズが持ち味。フィドルとギターのデュオ“Dai Komatsu & Tetsuya Yamamoto”で 2 枚の CD をリリース。2019 年に株式会社 Ode (オード) を設立し CEO に就任。袋井市や成田市で開催されたアイルランドフェスティバルの制作、豊洲スタイルマーケットや岡崎トレッドグッドマーケットをはじめ、多くの野外イベントの音楽プロデュースを行っている。2020 年 8 月、愛知県の山あいにある足助町を舞台にした映像作品「Asuke 夏の音」を制作する。美しい映像とアイルランド音楽が融合した作品は国内外で反響を呼んだ。愛知県立芸術大学音楽部卒業。

HP | ode-inc.com



大橋志麻 Shima Ohashi Irish Harp

9 歳よりクラシックハープを習い始め、12 歳の時に長屋梨沙氏に出会いアイリッシュハープを本格的に始める。その後アイルランドへ渡り Junshi Murakami 氏、Grainne Hambly 氏に個人レッスンを受けるほか、アイルランドのハープフェスティバルに複数参加。2018 年より演奏活動を本格的に開始し、フルートの瀧澤晴美とデュオ Fiona を結成する。2019 年 9-10 月に香嵐渓で開催された木曜グリーンマーケット公式アーティストをつとめる。2019 年 11 月には東海地方で最大規模のマルシェイベント「マーケット日和」に小松大、中村大史 (John John Festival, tricolor) とともに出演。2020 年 8 月、映像作品「Asuek 夏の音」に出演。



参加アーティスト

人魚姫～ 弦楽四重奏 × 語り × 人形

マーメイド・ストリングカルテット Mermaid String Quartet

森本千絵 (Vn)、波馬朝加 (Vn)、箕浦理恵 (Va)、山田真吾 (Vc) によるカルテット。
J. テイラー作曲の「人魚姫」公演のために結成された弦楽四重奏団。メンバーはヴァイオリンの森本千絵を中心に東海地区で活躍する実力派の演奏家で毎回構成される。



左上から | 森本千絵、波馬朝加、箕浦理恵、山田真吾

益川京子 Kyoko Masukawa 語り

愛知県生まれ、同地在住。俳優。NHKリポーター、アナウンサー等を経て現在はナレーションや司会も務めている。朗読劇からミュージカルまで活躍の場を広げている。ラジオドラマ「採光・大府ロマンス街道」アトリエあうんプロデュース、リーディングドラマ「街角の童話」等に出演。



永井聖子 Seiko Nagai 人形操演

岐阜県生まれ、愛知県在住。1982年人形劇団むすび座へ入団。数々の作品で東海地方を中心に全国を巡演。一人芝居ではシアトル (U.S.A) の人形劇フェスティバルに自主参加。人形劇団むすび座制作部で活動する傍ら「あいちトリエンナーレ並行企画 文楽人形オペラ おさん 伊八～陸月連理玉椿～」愛知人形劇センター創立30周年記念制作事業『ジェニー～白猫ピーターの不思議な冒険～』などに人形操演で参加。



レジデンス・アンサンブルプロジェクト

パシフィックカルテット Pacific Quartet

若手音楽家を育成する国際教育音楽祭、パシフィック・ミュージック・フェスティバル (以下PMF) の修了生の、香田早智 (Vn)、堀 脩史 (Vn)、鶴 友見 (Va)、丹羽あいり (Vc) により2017年に結成した弦楽四重奏。PMF委員会より選抜され、PMF北海道倶楽部、PMF東京札幌会、PMFコンサートin札幌など演奏現場を重ねる。また、(歌手) 半崎美子のサポートストリングスや、100万人のクラシックライブでの演奏など活動の幅を広げる。



左上から | 香田早智、堀 脩史、鶴 友見、丹羽あいり

みなとまちのうたプロジェクト

mica + hachi ミカハチ

mica bando と長谷川久美子による、アンサンブルユニット。主に鍵盤楽器と声を用いる。音を作る空間、「まち」と「ひと」の繋がり、その瞬間に生まれる音楽を大切にするコンサート「オトケシキ」を筆頭に、日本各地でコンサートやWSを行っている。



mica bando

長谷川久美子

参加アーティスト

アートプログラム | ART

上田 良 Yaya Ueda

1989年大阪府生まれ、神奈川県在住。自作のオブジェを撮影した写真作品をはじめ、版画やドローイング、コラージュなど幅広い制作を行いながら、アーティストユニット「THE COPY TRAVELERS」の一員として「複製」という手法の可能性について実験を試みている。「MAT, Nagoya Studio Project」に参加し、約1ヶ月港まちに滞在。今回は、滞在期間中に制作した、風景にとどまらないまちの要素を取り入れた新作を中心に展示を行う。近年の主な個展に「空間連動朝機」(gallery TOWED、東京、2019年)、「A Magpie's Nest」(galerie16、京都、2018年)、「めくるめくらむ」(awai art center / 信州大学附属図書館、長野、2017年)、「Small Scenery」(YEBISU ART LABO、愛知、2016年)などがある。これまでに「群馬青年ビエンナーレ2019」奨励賞、「VOCA展2017」VOCA奨励賞、「写真新世紀展2015」佳作賞を受賞。HP | yayaueda.com



《A Magpie's Nest》2019

L PACK. エルパック

小田桐奨と中嶋哲矢のユニット。「コーヒーのある風景」をテーマにアートやデザイン、建築、民藝など領域を横断し、コミュニケーションの場をさまざまな場所で創造する。アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2016年から現在まで継続するプロジェクトとして約20年間空き家となっていた旧・寿司店を《UCO》として再生し、人びとが集う「まちの社交場」として開いてきた。《UCO》は2018年に取り壊しとなったが、これまでの活動やコミュニティを継続するべくその機能を移転し、新たな空き家を再生して《NUCO》としてプロジェクトをさらに展開している。

主なプロジェクトに「WEMON PROJECTS」(池上エリア、東京、2019年-)、「DAILY SUPPLY SSS」(八反橋フードセンター、神奈川、2018年-)など。主な展覧会に、山形ビエンナーレ「彫刻のある喫茶店 NEL MILL」(東北芸術工科大学、山形、2018年)、工芸の五月「池上喫茶社」(池上邸、松本、2018年)などがある。また名古屋では、あいちトリエンナーレ2013期間中「NAKAYOSI」名義で《VISITOR CENTER AND STAND CAFE》を運営。

HP | www.lpack.jp



《NUCO》2019-
撮影 | 富田了平

折元立身 Tatsumi Orimoto

1946年神奈川県生まれ、同地在住。1969年渡米。1972年からニューヨークで、アーティストのナムジュン・パイクや前衛芸術運動・フルクサスに関わる。1977年に帰国、川崎市を拠点にパフォーマンスや写真、映像、ドローイングなど幅広い作品を世界各地で発表。顔一面にパンを付け各地の人びとと交流する路上パフォーマンス「パン人間」や、自身が介護するアルツハイマー症の母親を題材にした「アート・ママ」シリーズで注目を集める。

アッセンブリッジ・ナゴヤ2019では、これまで世界各地で開催してきた「おばあさんとのランチ」のプロジェクトを、港まちのおばあさんを招いて行った。2年にわたるプロジェクトとして、今回はその記録映像を発表する。

主な展覧会に、個展「昔と今」(尾道市立美術館、広島、2018年)、個展「生きるアート 折元立身」(川崎市市民ミュージアム、神奈川、2016年)、「ヴェネチア・ビエンナーレ」(イタリア、2001年)、個展「アート・ママ」(原美術館、東京、2000年)、「サンパウロ・ビエンナーレ」(ブラジル、1991年)、「シドニー・ビエンナーレ」(オーストラリア、1988年)などがある。



《26人の港まちのおばあさんのランチ》2019
撮影 | 三浦知也

参加アーティスト

丸山のどか Nodoka Maruyama

1992年新潟県生まれ、愛知県在住。ベニヤや角材などの製材された木材を用いて、言葉や風景を表象的に切り取り、立体化する作品を制作。近年では、パソコンやスマートフォンなどの液晶画面に流れる情報を「現代の風景」の一部として記号的に取り入れるなど、現実と虚像の間を空間に配置する作品を発表している。

今回は、港まちをはじめとした名古屋一帯の地域性から自身が感じ取ったトピックと、個人的な経験にまつわるエピソードを重ね合わせた主題をもとに、港まちで制作した新作インスタレーションを発表する。

主な展覧会に、ファン・デ・ナゴヤ美術展・個展「風景をみる／風景にみる」(市民ギャラリー矢田、愛知、2019年)、足助ゴエンナーレ「足助的芸術界限」(足助商店街各所、愛知、2018年)、「3331 ART FAIR 2018」(3331 アーツ千代田、東京、2018年)、「アタミアートウィーク 2017 -天つ風むすぶ熱-」(熱海市内各所、静岡、2017年)などがある。

HP | www.nodokamaruyama.com



《風景をみる／風景にみる》2019
撮影 | 高田 纈平

三田村光土里 Midori Mitamura

1964年愛知県生まれ、東京都在住。「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、日常の追憶や感傷のモチーフを写真や日用品、テキストなど、これまでさまざまなメディアを組み合わせたインスタレーションを発表。また自身が滞在し進行するインスタレーションと、参加者が朝食をとむとするイベントがひとつになったプロジェクト「Art & Breakfast」シリーズをはじめ、世界各地で活動を展開している。

今回は、海外に住む親しい友人たちとの再会をテーマにした映像作品《Till We Meet Again》(2013年)の上映とともに、会期中、旧・名古屋税関港寮で滞在制作を行う。

主な展覧会に、個展「Art & Breakfast ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア」(CAAM - Atlantic Center of Modern Art スペイン、2017年)、「あいちトリエンナーレ 2016」(愛知芸術文化センター、2016年)、個展「Green on the Mountain」(ウィーン分離派館・セセッション、オーストリア、2006年)などがある。

HP | www.midorimitamura.com



《アート&ブレイクファスト》2016
撮影 | 祐土 鉄夫

ミヤギフトシ Futoshi Miyagi

1981年沖縄県生まれ、東京都在住。留学先のニューヨークにて、制作活動を開始する。自身の記憶や体験に向き合いながら、国籍や人種、アイデンティティ、セクシャリティといった主題について、映像、オブジェ、写真、テキストなど、多様な形態で作品を発表。また小説の執筆や文芸誌への寄稿など、美術分野以外でも活動の幅を広げている。

今回は、あいちトリエンナーレ 2016 で発表した映像インスタレーション《いなくなってしまった人たちのこと / The Dreams That Have Faded》と、その続編でイタリアと名古屋港で撮影した新作《音と変身 / Sounds, Metamorphoses》(愛知県美術館オリジナル映像作品)をインスタレーション形式で発表。港まちの複数の会場でも展示を行う。

主な展覧会に「現在地：未来の地図を描くために」(金沢 21世紀美術館、石川、2020年)、「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」(国立新美術館、東京、2019年)、「近くへの遠回り -日本・キューバ現代美術展」(ウィフレド・ラム現代美術センター、キューバ、2018年)、「蜘蛛の糸」(豊田市美術館、愛知、2016年)などがある。

HP | fmiyagi.com



《音と変身》2020

参加アーティスト

サウンドブリッジ | SOUND BRIDGE

浅井信好 Nobuyoshi Asai

1983年愛知県生まれ、同地在住。演出家、振付家、舞踏家。1997年よりストリートダンスをはじめ、SMAP やサカナクションなどの振付を担当。2006-2011年まで山海塾に所属する傍ら、2010年にポーラ美術財団在外研修員としてベルリンで活動。2011年から文化庁新進芸術家海外研修制度在外研修員としてパットシェバ舞踊団へ派遣。2015年より「月灯りの移動劇場」主宰、2017年より「ダンスハウス黄金4422」代表。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは2018年に、旧・名古屋税関港寮の全体を使用した回遊型パフォーマンス「石若駿 × 浅井信好 ライブセッション」を実施した。



撮影 | 三浦知也

石若駿 Shun Ishiwaka

1992年北海道生まれ、東京都在住。打楽器奏者。リーダープロジェクトとして、Answer to Remember、CLNUP4、SMTK、Songbook Trio を率いる傍ら、くるり、CRCK/LCKS、KID FRESINO、君島大空、Millennium Parade など数多くのライブ、作品に参加。

山口情報芸術センター [YCAM] にて、細井美裕 + 石若駿 + YCAM 新作コンサートピース「Sound Mine」を発表。ソロパフォーマンスが妹島和世設計による大阪芸術大学アートサイエンス科新校舎のドキュメンタリーの音楽に抜擢されるなど活動は多岐に渡る。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは2018年に、旧・名古屋税関港寮の全体を使用した回遊型パフォーマンス「石若駿 × 浅井信好ライブセッション」を実施した。

HP: www.shun-ishiwaka.com



撮影 | 三浦知也

井手健介 Kensuke Ide

1984年宮崎県生まれ、東京都在住。音楽家。東京・吉祥寺バウスシアターの館員として爆音映画祭等の運営に関わる傍ら、2012年より「井手健介と母船」のライブ活動を開始。さまざまなミュージシャンと演奏を共にする。

バウスシアター解体後、アルバムレコーディングを開始。2015年8月に1stアルバム『井手健介と母船』（Pヴァイン）、2017年に12インチ・EP『おてもやん・イサーン』（EMレコード）、1stアルバム・ヴァイナル・エディション（Pヴァイン）をリリース。また2020年4月には、石原洋サウンドプロデュース、中村宗一郎レコーディングエンジニアのタッグにより制作された、「Exne Kedy And The Poltergeists」という架空の人物をコンセプトとした2ndアルバム『Contact From Exne Kedy And The Poltergeists（エクスネ・ケディと騒がしい幽霊からのコンタクト）』を発表する。

その他、映像作品の監督、楽曲提供、執筆など多岐に渡り活動を続ける。

HP | <http://www.idekensuke.com>



イ・ラン (이랑) Lang Lee

1986年韓国・ソウル生まれ。音楽、映像、漫画、イラスト、エッセイなど、表現活動は多岐にわたる。セカンド・アルバム『神様ごっこ』で2016年に韓国大衆音楽賞最優秀フォーク楽曲賞を受賞。日本では2016年に柴田聡子との7都市ツアーを行い、その後共作盤『ランナウェイ』を発表。2018年の単独ツアーも全4都市5公演すべてがソールドアウト、その東京公演はライブ・アルバム『クロミョン〜 Lang Lee Live in Tokyo 2018 〜』に収録されている。最近作は2020年にリリースしたデジタル・シングル「患難の世代」。彼女が紡ぎ出す音楽をはじめとした表現、真摯で嘘のない発言やフレンドリーな姿勢・思考は、国籍や性別、さまざまな立場を超え、広く人びとの心を揺さぶり、センセーションとシンパシーを生んでいる。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2019年にライトアップされた南極観測船ふじを背景に、ライブ「イ・ランとみなとまち」を、イ・ヘジ（チェロ）と行った。歌詞の日本語字幕も投影し、観客へ歌とメッセージを届けた。



撮影 | 三浦知也

参加アーティスト

大城 真 Makoto Oshiro

1978年沖縄県生まれ、東京都在住。音を出すために自作した道具、または手を加えた既製品を使ってライブパフォーマンスを行う。また並行して音・光・動きによる周期の干渉を利用したインスタレーション作品を発表。

自身の活動のほか、サウンドエンジニアとして、イ・ランや角銅真実など多数のアーティストの作品を手がける。レーベル「Basic Function」主宰。

2010年夏に開催された梅香堂（大阪）での展覧会「夏の大△(なつのだいさんかく)」を機に、川口貴大、矢代諭史とともに「夏の大△」として活動を開始し、不定期にライブやイベント、展覧会を行う。日常にありふれた道具や材料、音を発する物、台や脚立なども使い、空間全体を取り込んだインスタレーションとパフォーマンスを展開する。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2019年に「夏の大△ サウンドパフォーマンス」を行い、幼稚園内の複数の空間を大胆に使用したパフォーマンスを行った。



撮影 | 今井正由己

角銅真実 Manami Kakudo

1988年長崎県生まれ、東京都在住。音楽家、打楽器奏者。マリimbaをはじめとするいろいろな打楽器、自身の声、言葉、身の回りの気になるあらゆるものを用いて、音楽といたずらを紡ぐ。その形はインスタレーション、アートプロジェクトでの作品制作にも及び、演奏だけにとどまらない作家としての自由な表現活動を国内外で展開している。

ソロでの活動のほか、バンド・ceroのサポートメンバーとして活動。そのほか原田知世やORIGINAL LOVEなど、様々なアーティストのライブへの参加、作品にレコーディングで携わるほか、CM・映像、ダンスやインスタレーション作品への楽曲提供・音楽制作など幅広い活動を行う。2016-2019年には、ドラマー・石若駿の『Song book 1,2,3,4』に歌詞提供と歌唱で参加。近年は原田知世に作詞家として歌詞を提供するなど、言葉にも表現領域を広げている。

2020年1月、初めて「うた」にフォーカスしたアルバム『oar』(ユニバーサルミュージック)を発表。7月にはBunkamuraシアターコクーンで上演された演劇作品『プレイタイム』の音楽を担当。アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2017年「みなと音めぐり」に出演、2018年には取り壊しが決まったUCO(旧・潮寿司)にて、音楽家の横手ありさと美術家の山城大督とともに音楽と映像による企画「こんにちはのうしお」を行った。

HP | <https://manamikakudo.wordpress.com/>



撮影 | 三浦知也

Gofish ゴーフィッシュ

1973年岐阜県生まれ、愛知県在住。テライショウタによる歌とギターをメインとしたソロユニット。2000年頃より活動開始し、これまでに5枚のアルバムをリリース。またイ・ランや柴田聡子など、さまざまなアーティストとのコラボレーションも行っている。1995年結成のハードコア・パンクバンド「NICE VIEW」ではギター/ボーカルを務める(現在は活動休止中)。

Gofishの活動のほか、テライショウタ名義で音楽とスパイスの宴「カレー・ミーティング」や「カレーとノイズ、その他」を主催するなど、幅広く活動する。2020年8月から10月には名古屋港エリアで展開するアートプログラムMAT, Nagoyaの「スタジオプロジェクト vol.6」に参加し、制作・活動発表を行う。

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2017年に音楽を奏でながらまちをめぐる「みなと音めぐり」に出演、2018年にはソロライブ「UCOの裏庭ライブ」を実施、2019年はNUCOにてカレーイベント「Curry Shop by Shota Terai」を行った。



撮影 | 今井正由己

呂布カルマ Ryofu Karuma

1983年大阪府生まれ、愛知県在住。ヒップホップMC。ヒップホップレーベル「JET CITY PEOPLE」代表。グラビアディガー。名古屋芸術大学美術学部に入学生、卒業後はフリーターを続けながら小学生からの夢であったプロの漫画家を目指すも、本格的にラップを始める。フリースタイルラップバトルのテレビ番組「フリースタイルダンジョン」2代目・3代目「モンスター」。2018年、5枚目となるアルバム『SUPERSALT』をリリース。アッセンブリッジ・ナゴヤでは、2018年・2019年の「港まちブロックパーティー」に名港サイファーとして参加。



撮影 | 三浦知也

チケット情報

●チケット

ブリッジパス ¥700

現代美術展やプログラムに参加するための共通のパスです。

会期中、アッセンブリッジ・ナゴヤ総合案内（港まちポットラックビル）とイベント会場でご購入いただけます。

- ・名古屋港ポートビル展望室入場券が含まれます。
- ・ご本人に限り会期中何度でも利用可能です。（*名古屋港ポートビル展望室は1回のみ）
- ・中学生以下は無料です。（*名古屋港ポートビル展望室は除く）
- ・障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方2名までは100円割引になります。ブリッジパスをご購入の際、手帳をご提示ください。

以下のチケットをご提示の方は100円引きいたします。購入の際ご提示ください。

対象|

- ・名古屋市交通局のドニチエコきっぷ、一日乗車券（ご利用開始後、有効期限内のチケットに限る）
- ・クルーズ名古屋乗船券（当日利用した乗船券に限る）

●予約

音楽のプログラムのご予約はウェブサイトの「チケット」をご覧ください。

[要予約公演]

- ・「迷惑な反復コーキョー曲 Beethoven 250 を弾いてみよう！」
- ・「北口大輔がチェロリサイタルするかと思いきや・・・野村と鈴木が乱入してみた！ークラシックジャズチャンプルー」
- ・名古屋市文化振興事業団企画「かたり、かなでる～海のむこうと水辺から」の3公演

アート、サウンドブリッジのプログラムのご予約はこちら

- ・WEB|PassMarket（Yahoo!JAPAN デジタルチケット）

ご予約は、公演前日の24:00まで可能。

<https://bit.ly/36FcTJY>

- ・アッセンブリッジ・ナゴヤ総合案内（港まちポットラックビル）

ご予約は、公演前日まで可能。

受付時間|11:00-19:00（会期中の木曜-日曜、祝日）

新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。

最新情報はウェブサイトをご確認ください。

【ご来場のみなさまへお願い】

- ・ご来場の際はマスクを着用ください。
- ・咳エチケット、こまめな手洗いや手指消毒にご協力ください。
- ・展示・イベント会場にて検温を行います。37.5℃以上の発熱があると認められた際は、ご入場をお断りさせていただきます。
- ・会場にてご連絡先の記入にご協力ください。（新型コロナウイルス感染症の発生が確認された場合のご連絡や調査のため、ご連絡先のご記入をお願いしております。）
- ・他のお客様と距離をとってご鑑賞ください。混雑状況により入場をお待ちいただく場合があります。

【下記に該当される方はご来場をお控えください】

- ・発熱や咳、くしゃみ、喉の痛みなどの症状がある方、体調の優れない方
- ・海外から入国した翌日から数えて14日以内の方
- ・ご家族や職場、学校など身近に新型コロナウイルス感染症の感染者がいる方、もしくは感染の可能性のある方

注意事項

- ・各会場駐車場の用意はございません。公共交通機関をご利用ください。
- ・定員に達した場合、立ち見もしくは入場を制限させていただく場合がございます。
- ・公演内容や曲目、出演者は予告なく変更となる場合がございます。
- ・天候、災害、その他アーティストの都合など、やむを得ない事情により公演が変更・中止となる場合がございます。
- ・お客様の都合による、払い戻し、再発行には応じかねます。
- ・当日券販売の有無は公演当日、ウェブサイトまたはお電話にてお問合せください
- ・当日会場にて介助を必要とされる方やご不安な点のある方は事前に事務局までお問合せください。

開催クレジット

●主催

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

構成団体 |

名古屋市

港まちづくり協議会

名古屋港管理組合

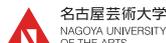
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団

公益財団法人名古屋市文化振興事業団

●助成

2020年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、公益財団法人 福武財団、公益財団法人朝日新聞文化財団

●協賛



●後援

公益財団法人名古屋みなと振興財団

●協力

飛島マリン

●企画体制

アートプログラムディレクター | 服部浩之、青田真也、吉田有里

音楽プログラムディレクター | 岩田彩子

レジデンス・アンサンブル プロジェクト ディレクター | 北川明孝

コーディネーター | 谷口裕子

アーキテクト | 米澤 隆

デザインディレクション、デザイン | 中西要介 (STUDIO PT.)、溝田尚子

デザイン | 根津小春 (STUDIO PT.)、寺脇裕子

ウェブデザイン | 石垣嘉洋

広報 | 大泉愛子、出会桃子



公益財団法人 福武財団



新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。
最新情報はウェブサイト、SNSにてお知らせします。

ウェブサイト | www.assemblebridge.nagoya

twitter | @assemblebridge twitter.com/assemblebridge

FB | assemblebridge.nagoya www.facebook.com/assemblebridge.nagoya

instagram | @assemblebridge.nagoya www.instagram.com/assemblebridge.nagoya

* プレスリリースは、公式ウェブサイト内プレスページよりダウンロードいただけます。

* ご取材、広報用画像のご希望等、広報に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

* メールでお問い合わせいただくと、最もスムーズに対応可能です。

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会事務局

E-mail | press@assemblebridge.nagoya (広報 | 担当: 出会) contact@assemblebridge.nagoya (事務局)

〒455-0037 名古屋市港区名港 1-19-18 3F

TEL/FAX | 052-652-2511

電話受付時間 | 月曜-金曜 (9:00-17:00)、[会期中] 月曜-水曜 (9:00-17:00,) 木曜-日曜・祝日 11:00-19:00